

事業実施主体名:中荘地区活性化協議会

令和8年7月1日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(市町村・中核法人実施型)
奈良県 吉野町	令和5年度	Webサイト、地域の歴史や文化ガイドマップ等の多言語化、インバウンド向け食事メニュー開発、地域資源を活かした環境コンテンツの高付加価値化及び世界に向けた情報発信を行い、インバウンドが安心して訪れることができる環境を整える。	

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価委員会での評価コメント) 食事メニューの高付加価値化(英語版お品書き)は翻訳アプリの普及で接客が対応できているため英語版お品書き作成は1店舗にとどまったとしているが、インバウンドの飲食店来客者数が減少していることから本当に英語化の取り組みが不要かどうか協議会で検討すべきなのは。また、実施した店舗のメニューはローマ字化しているだけで英語化されているとは言い難い。郷土料理紹介は未実施となっており、実施について要検討である。取り組みの未実施が目標の未達成の一因になっているとも考えられ、このことから十分な成果を上げているとは言えない。 (目標達成に向けた指導・助言等) 目標のうち「インバウンドによる地域の売上高」、が低調となった問題点について分析を行い、その上で必要な改善策を講じ、令和7年度 of 取組を推進されたい。今一度郷土料理紹介やメニューの英語化について協議会にて検討し、改善への取組を行われたい。
--

2. 低調と評価された要因

①英語メニュー化の不十分さにより、外国人旅行者が安心して飲食店を利用できる環境が整っていなかった。このため、飲食店のインバウンド受入の魅力向上に繋がらず、来客および売上増加に寄与しなかったと考えられる。 ②郷土料理紹介の情報提供が不足していたため、地域資源の価値発信が弱く、回遊性や飲食機会を高める効果が発揮されなかった。 ③協議会内での検討、合意形成が不足していたため事業判断が十分に議論されなかった。
--

3. 目標達成に向けた方策

・英語メニュー化の再整備および対象拡大 ・郷土料理紹介の実施による地域の魅力発信 ・インバウンド売上低調の要因分析と改善施策の徹底 ・協議会での定期的検討会議を設置し、改善のPDCA体制確立 これらの改善策を令和7年度内に実行し、インバウンド需要に対応できる農泊地域として発展を図る。	R7年11月～R8年2月 R7年11月～R8年2月 R7年11月～R8年3月 R7年11月～R8年3月
--	--

4. 改善状況

令和6年度に目標未達成であった項目については、大阪・関西万博開催による関西圏への来訪者増加や、円安を背景とした訪日旅行需要の拡大、さらには地方での体験型観光への関心の高まりを追い風として、ゲストハウスきさのせせらぎの利用者数が大きく増加し、これに伴い、地域飲食店への来客数も増加したと考えられる。 また、「ゲストハウスきさのせせらぎ」でのインバウンドの予約ルートは大手OTAサイト経由であるが、世界的に認知度が高いプラットフォームに掲載したことで、海外の個人旅行者の受け皿として機能している。 このことから、総合的にみて成果が上がっており、改善が図られているため、今後の指導は必要ないと考えられる。
